

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月11日
【四半期会計期間】	第16期第1四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 晃洋
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理部マネージャー 石井 礼人
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理部マネージャー 石井 礼人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第1四半期連結 累計期間	第16期 第1四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成25年7月1日 至平成26年6月30日
売上高 (千円)	2,293,901	2,647,577	10,082,506
経常損益(は損失) (千円)	112,255	35,688	646,096
四半期(当期)純損益(は損失) (千円)	97,598	46,947	291,690
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	98,969	31,023	289,247
純資産額 (千円)	3,132,935	3,466,769	3,586,126
総資産額 (千円)	4,269,411	4,758,739	5,031,921
1株当たり四半期(当期)純損益 金額(は損失) (円)	19.39	9.18	57.37
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	56.51
自己資本比率 (%)	73.4	72.2	70.8

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第15期第1四半期連結累計期間及び第16期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、4,758,739千円（前連結会計年度末比273,181千円減）となりました。

流動資産は、3,726,504千円（前連結会計年度末比396,816千円減）となりました。その主な要因は、現金及び預金が393,517千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、1,032,234千円（前連結会計年度末比123,634千円増）となりました。その主な要因は、無形固定資産が52,973千円増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

負債は、1,291,969千円（前連結会計年度末比153,825千円減）となりました。

流動負債は、1,291,969千円（前連結会計年度末比153,825千円減）となりました。その主な要因は、未払法人税等が271,540千円減少したこと等によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、3,466,769千円（前連結会計年度末比119,356千円減）となりました。その主な要因は、利益剰余金が143,622千円減少したこと等によるものであります。

(2)経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続く中で、企業収益は改善しました。また、個人消費は、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動も徐々に緩和してきているものの、天候不順等の影響もあり、持ち直しの動きに足踏みがみられました。

モバイルビジネスを取り巻く環境として、スマートフォン契約比率(注1)は、平成26年3月末の47.0%から、平成31年3月末には70.9%に達すると予測されています(注2)。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をひたむきに追究しつづけると共に、当期は、中期目標を達成すべく、恋愛ドラマアプリでのノウハウを米国・サスペンスアプリへ展開し、市場拡大をしていくことで、さらなる収益拡大に努めています。

売上は、日本語市場において、恋愛ドラマアプリのパーソナル型(注3)は、キャリア公式PF(注4)向けが、PF環境の変化に伴い想定通り減少しましたが、OS系PF(注5)向けが増加しました。ソーシャル型(注6)は、ソーシャル専門PF(注7)向けが減少しましたが、OS系PF向けが大幅に増加しました。また、サスペンスアプリは、大幅に増加しました。英語市場において、L10N(注8)タイトル、SFスタジオ(注9)発タイトルはともに、順調に推移しました。全体としては、前年同期比及び計画比で増加しました。

費用は、主にOS系PF向け売上の増加による販売手数料の増加等がありました。広告宣伝費については、テレビCMを出稿しましたが、効率的に使用し、前年同期比で減少しました。

利益は、計画通りの赤字でありましたが、販売手数料等の増加を、売上の増加で吸収し、前年同期比及び計画比で赤字額は大幅に減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間において、売上高は2,647,577千円（前年同期比15.4%増）、営業損失は41,213千円（前年同期は営業損失112,235千円）、経常損失は35,688千円（前年同期は経常損失112,255千円）、四半期純損失は46,947千円（前年同期は四半期純損失97,598千円）となりました。

当第1四半期累計期間の主な取り組みは、以下の通りであります。

(日本語市場)

・恋愛ドラマアプリ(パーソナル型)

新規タイトル「恋してしまった星の王子」「偽りの君とスキャンダル」が好調に立ち上がりました。既存タイトル「誓いのキスは突然に」「特別捜査 密着24時」等も好調に推移しました。集客は、平成26年8月に「上司と秘密の2LDK」のテレビCMを出稿し、計画を上回る効果が得られました。

・恋愛ドラマアプリ(ソーシャル型)

新規タイトル「スイートルームで悪戯なキス」が好調に立ち上がりました。既存タイトル「王子様のプロポーズ」「誓いのキスは突然に」等も好調に推移しました。集客は、OS系PF向けのモバイル広告出稿等を行いました。

・サスペンスアプリ

第2弾となる「ゴシップライター ~消えたアイドルを救え!~」を立ち上げました。集客は、平成26年8月に「新・生存率0%! 地下鉄からの脱出」のテレビCMを出稿し、計画を上回る効果が得られました。

(英語市場)

L10Nタイトルにおいては、新規タイトル「First Love Diaries -A Kiss on the Beach-(注10)」「Finally, in Love Again(注11)」が順調に立ち上がり、計画を上回りました。既存タイトル「Kissed by the Baddest Bidder(注12)」「My Forged Wedding(注13)」等も好調に推移しました。

SFスタジオにおいては、第2四半期投入予定タイトルの企画を進めてきました。既存タイトルは、引き続き、購買メカニズムに基づいたKPI測定とPDCA運用の強化を図りました。

- (注) 1. スマートフォン契約比率: スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合
2. 出所: 株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測(2014年4月)」2014年4月23日発表
3. パーソナル型: 主に個人でドラマを楽しむコンテンツ
4. キャリア公式PF: NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト
5. OS系PF: App Store、Google Play等のアプリマーケット
6. ソーシャル型: 主に友達等との交流をしながらドラマを楽しむコンテンツ
7. ソーシャル専門PF: GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF
8. L10N: Localizationを意味する省略表記
9. SFスタジオ: 米国サンフランシスコにある当社子会社
10. 邦題: 「湘南初カレDiary」 11. 邦題: 「最後の恋、僕にください」
12. 邦題: 「スイートルームで悪戯なキス」 13. 邦題: 「誓いのキスは突然に」

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,117,467	5,127,467	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	5,117,467	5,127,467	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日 (注)1	1,500	5,117,467	275	908,935	275	874,535

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成26年10月1日から平成26年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が10,000株増加、また、資本金及び資本準備金がそれぞれ5,215千円増加しております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,113,500	51,135	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,267	-	-
発行済株式総数	5,115,967	-	-
総株主の議決権	-	51,135	-

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20-3	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,201,178	1,807,660
売掛金	1,836,738	1,805,590
前払費用	41,394	45,417
繰延税金資産	39,610	60,237
その他	8,504	10,425
貸倒引当金	4,105	2,826
流動資産合計	4,123,321	3,726,504
固定資産		
有形固定資産	241,465	267,182
無形固定資産	364,650	417,624
投資その他の資産	302,483	347,427
固定資産合計	908,599	1,032,234
資産合計	5,031,921	4,758,739
負債の部		
流動負債		
買掛金	155,799	144,050
未払金	20,935	15,972
未払費用	794,761	901,816
未払法人税等	307,559	36,019
賞与引当金	-	92,281
その他	166,739	101,829
流動負債合計	1,445,794	1,291,969
負債合計	1,445,794	1,291,969
純資産の部		
株主資本		
資本金	908,660	908,935
資本剰余金	874,260	874,535
利益剰余金	1,762,594	1,618,971
自己株式	196	196
株主資本合計	3,545,319	3,402,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	794	970
為替換算調整勘定	18,224	32,382
その他の包括利益累計額合計	17,429	33,353
新株予約権	23,377	31,170
純資産合計	3,586,126	3,466,769
負債純資産合計	5,031,921	4,758,739

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,293,901	2,647,577
売上原価	819,521	899,993
売上総利益	1,474,380	1,747,583
販売費及び一般管理費	1,586,615	1,788,797
営業損失()	112,235	41,213
営業外収益		
受取利息	226	274
受取配当金	-	7
為替差益	-	4,960
雑収入	334	333
営業外収益合計	561	5,575
営業外費用		
為替差損	581	-
その他	-	50
営業外費用合計	581	50
経常損失()	112,255	35,688
特別損失		
固定資産除却損	4	-
特別損失合計	4	-
税金等調整前四半期純損失()	112,259	35,688
法人税、住民税及び事業税	25,793	32,581
法人税等調整額	40,454	21,322
法人税等合計	14,660	11,258
少数株主損益調整前四半期純損失()	97,598	46,947
四半期純損失()	97,598	46,947

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	97,598	46,947
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	1,764
為替換算調整勘定	1,370	14,158
その他の包括利益合計	1,370	15,923
四半期包括利益	98,969	31,023
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	98,969	31,023

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)
減価償却費	56,592千円	68,936千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月26日 定時株主総会	普通株式	95,646	19.0	平成25年6月30日	平成25年9月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月25日 定時株主総会	普通株式	97,199	19.0	平成26年6月30日	平成26年9月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	19円39銭	9円18銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	97,598	46,947
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	97,598	46,947
普通株式の期中平均株式数(株)	5,034,630	5,116,239
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月11日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田邊晴康 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岩尾健太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。